

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

代理人

小越 勇

様

あて名

〒105-0002

日本国東京都港区愛宕一丁目2番2号
虎ノ門9森ビル3階
小越国際特許事務所

PCT

国際予備審査機関の見解書

（法第13条）

〔PCT規則66〕



発送日

（日.月.年）

21.02.2006

出願人又は代理人

の書類記号 AY05-0125W02

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JP2005/002209

国際出願日

（日.月.年） 15.02.2005

優先日

（日.月.年） 01.03.2004

国際特許分類（IPC）Int.Cl. C23C14/34(2006.01), H01L21/285(2006.01)

出願人（氏名又は名称）

株式会社 日鉱マテリアルズ

- ☒ 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と ☒ みなされる。
☐ みなされない。
- この 3 回目の見解書は、次の内容を含む。
 - ☒ 第I欄 見解の基礎
 - ☐ 第II欄 優先権
 - ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 - ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第V欄 法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第VII欄 国際出願の不備
 - ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見
- 出願人は、この見解書に応答することが求められる。
いつ？ 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条（PCT規則66.2(e)）に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。
どのように？ 法第13条（PCT規則66.3）の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条（PCT規則66.8及び66.9）を参照すること。
なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2（PCT規則66.4）を参照すること。補正書及び／又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。
応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。
- 特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第2章）作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 01.07.2006 である。

名称及びあて先

日本国特許庁（IPEA/JP）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

田中 則充

電話番号 03-3581-1101 内線 3416

4G

9730

第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則 12.3(a)、23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則 12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則 55.2(a)又は55.3(a))

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-4, 6-9 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 第 5 _____ ページ、 22.08.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 項、 出願時に提出されたもの
 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 1, 4, 7, 8 _____ 項、 25.01.2006 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 2, 3, 5, 6, 9, 10 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1, 4, 7, 8	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1, 4, 7, 8	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1, 4, 7, 8	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1：JP 11-293454 A（日立金属株式会社）
1999. 10. 26, 請求項1, 請求項6, 段落【0028】, 段落【0043】, 段落【0060】（ファミリーなし）

文献2：JP 9-228037 A（畑 朋延）
1997. 09. 02, 請求項1, 段落【0002】, 段落【0008】, 図4（ファミリーなし）

文献3：JP 6-136524 A（三菱化成株式会社）
1994. 05. 17, 段落【0012】（ファミリーなし）

文献4：JP 2000-199054 A（株式会社神戸製鋼所）
2000. 07. 18, 請求項1, 段落【0035】－【0064】
（ファミリーなし）

請求の範囲1, 4, 7, 8に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1－3と2回目の見解書で引用された文献4とにより進歩性を有しない。文献3に記載されたターゲットの表面処理を文献1, 2に記載されたターゲットに施すことは、当業者にとって容易である。また、文献4に記載された溶解、圧延によるターゲットの製造方法を文献1, 2に記載されたターゲットの製造方法として採用することは、スパッタリングによって形成される薄膜に求める組成分布の均一性、経済性、生産性等に応じて、当業者が適宜なし得るものである。